



秋の実を紹介



04 三俣山西峰を通過し本峰へ



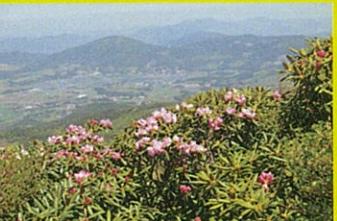
避難小屋の目の前が、三俣山への登り口です。登山道は笹が生い茂っているので、踏み跡をたどっていきます。登りついでたところで、やっと本峰が見えてきます。ここから本峰までは、もう少し。後ろを振り返ると、雄大なくじゅう連山の山塊が見えます!

三俣山は春～初夏もみどころ満載!



3月中旬
マンサク

大鍋まわりや小鍋周辺に群生して見られます。



5月中旬
ツクシシャクナゲ

大鍋に降りる途中や、北峰山頂付近に群生して見られます。



6月上～中旬
ミヤマキリシマ

本峰・南峰などの斜面に群生して見られます。ミヤマキリシマの名所。

2017年秋号



05 三俣山本峰 (1744m) 大鍋まわりの紅葉が見事!

三俣山本峰に到着!真正面に見えるのが、北峰と飯田高原。眼下に見えるのは、大鍋という窪地で、大鍋のまわりの紅葉が、三俣山の紅葉のハイライトです。(本峰から大鍋に下りて、北峰・南峰とお鉢まわりをするこどもできますが、急坂のため注意が必要です。また、三俣山小鍋～雨ヶ池は、植生保護のために通行禁止となっております。ご注意ください。)



Check!

フリース

紅葉が見ごろの時期となる、10月中旬～11月初めころは、朝晩の冷え込みが厳しく、気温がマイナスになることもあります。こんなとき、おすすめの持ち物はフリースです。軽くて、暖かくて、速乾性もあるので、汗をかいたら冷えたりの紅葉登山のときには、大活躍! アウターには、風よけにレインウェアなどを着用しましょう。

諏訪守越付近は、霧がよく発生する場所として知られています。黄色のマーカーを追うべく歩きましょう。また、強風が吹く場所もあるので、レインウェアやウインドブレーカーを持っていきましょう。

12

くじゅうの本格的な紅葉を見に行こう!
片道約2時間30分

長者原～三俣山(本峰)

1,030m

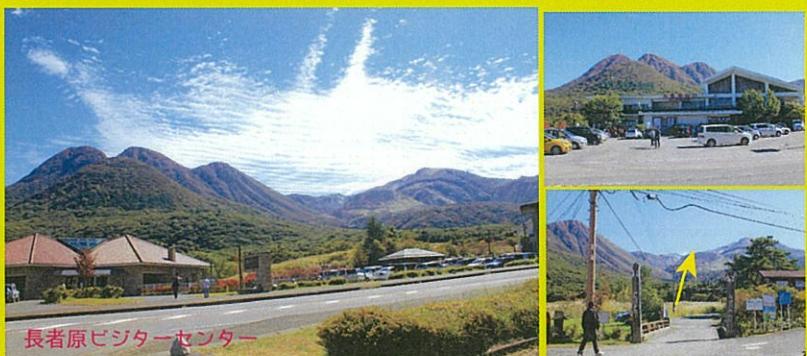
1,744m

1,700m級の山々が連なる、くじゅう連山。九州の中でも、標高が高く、冷え込みが厳しいため、10月中旬～11月初旬にかけて、くじゅう連山一帯で見事な紅葉が見られ、各地から多くの人が訪れます。

紅葉で有名な大船山山頂までは、長者原から往復8時間以上の登山となり、初心者にはややハードルが高いコースですが、三俣山(本峰)へは健脚の方で、片道約2時間30分程度で登れ、山頂からは見事な紅葉が見られるので、「体力にそこまで自信がないけど、くじゅうの紅葉を一目でも見てみたい!」という方に、おすすめのコースです。

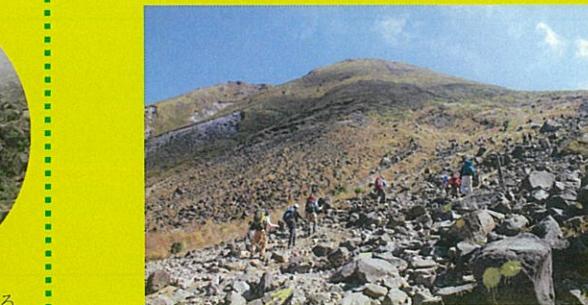
三俣山は、紅葉すると葉が真っ赤に染まる、ドウダンツツジの仲間のツクシドウダン、シロドウダン、ベニドウダンなどがたくさんあり、くじゅう連山の中でも隠れた紅葉スポットとして知られています!

01 長者原登山口 1,030m



やまなみハイウェイ(県道11号線)沿いにある、長者原登山口。約450台収容できる駐車場があり、トイレや売店・食堂があります。長者原ビジターセンターが駐車場のすぐ横にあるので、ここでルートの確認をしていきましょう。周辺の売店では、飲み物や軽食、ガスピボンベなどの販売もしています。長者原ヘルスセンターとモンベルの間の舗装した道(硫黄山道路)から、入山します。

03 硫黄山道路～諏訪守越



ここから諏訪守越までは、急な岩場が続きます。登り着いたら、諏訪守越に到着。*避難小屋があるので、ここでひと休みしていましょう。

02 硫黄山道路～坊原登山道～硫黄山道路



硫黄山道路をまっすぐ進んでいくと、途中から諏訪守越への近道の登山道に入っていく分岐があります。登山道は、やや浸食がすすみ、笹が茂っていて滑りやすいので注意しながらすすみましょう。この登山道は、再び硫黄山道路と合流します。